

高き志【こころざし】

カカ・ムラド

2019年12月4日アフガニスタンで、人道支援活動に取り組んでいた医師の中村 哲さんが銃撃され亡くなりました。私は、その報道があるまで中村さんのことをよく知りませんでした。しかし、その後の報道で、中村さんが取り組んできた医療活動とマルワリード用水路作りについて知り、現地の多くの人たちが中村さんを悼む姿を見て、中村さんの計り知れない偉業を知ることができました。また、少し前に熊本市内で開催された「中村哲さんをしのぶ追悼の会」に参加した妻が、その内容を熱心に話す姿を見て、中村さんのことをもう少し知りたくなりました。そこで、生前に本人が執筆された「天、共に在り」という本を読んでみました。

感想を一言で表すと「弱者に寄り添うことができる感性豊かな心と、強い意思や並外れた実行力を併せ持ち、その人生は誰にもまねできないものだった。」と言えます。内容に詳しく触れる紙面の余裕はありませんが、「はじめに」にある次の文章は、中村さんの「人となり」が伝わるものになっていると思います。

「現地30年の体験を通して言えることは、私たちが己の分限を知り、誠実である限り、天の恵みと人のまごころは信頼に足りるということです。」

そんな中、ホームページでも紹介しましたように、地域の方のご寄付により115冊もの新しい本が図書室に入りました。どんな本があるのか確認していたところ、「カカ・ムラド ナカムラのおじさん」という本を見つけました。表紙には、写真で見た中村さんらしき人物が笑顔いっぱいの子どもたちに囲まれている絵が描かれていました。この本は、中村さんに助けてもらったことを後世に語り継ぐために、アフガニスタンで出版された2冊の絵本、「カカ・ムラド ナカムラのおじさん」と「カカ・ムラドと魔法の小箱」に少し解説を加えてまとめられたものだったのです。（「カカ・ムラド」とは現地の言葉で「ナカムラのおじさん」という意味だそうです）まだ貸し出す準備ができていない本だったので、校長室に持ち帰り読んでみました。「天、共に在り」を読んで、子どもたちに中村さんのことを知ってもらいたいと思いながらも、この本は子どもたちが読むのは難しいなと感じていた私にとって、「これなら子どもたちに伝えることができる」と思えた本でした。

あまり厚くなく、すべてのページに挿絵が入り、事実をもとに子どもにも分かりやすい創作として仕上げられています。中村さんが全長25kmのマルワリード用水路を完成させ、きれいな水を供給し砂漠の緑化に努めた功績に加え、その事業は医療活動がきっかけで始まり、あくまで現地の人の目線に立ち、その気持ちに寄り添った事業であったことがこの絵本から分かります。そして、中村さんが住民から慕われ、信頼されていたこともよく伝わってきます。

最後の場面で、物語に出てきた父親は娘に語ります。「カカ・ムラドは、わたしたちの貧しさや苦しみを、まるで自分のことのように感じてくれる人だったんだ。……そして、尊敬するカカ・ムラドへの気持ちを込めて、おまえの弟にムラドという名前をつけたのさ」と。

中村 哲さんの「こころ」を知ることができる素晴らしい本です。【ちなみに、記者の一人はシンガーソングライターのさだまさしさんです。さださんは、海外で人道支援に力を尽くす人々を「風に立つライオン」とたたえ曲を作り歌ってきました。（映画化もされた名曲です。興味がある方はぜひ最後まで聞いてみてください）また、さださんの曲「ひと粒の麦～Moment～」は、中村さんの死後、中村さんを追悼する歌として作られたものです。】

明日から子どもたちが待ちに待っていた夏休みです。しかし、全国的なコロナの感染状況は再拡大の方向に向かっています。せつかくの夏休みですが、外出があまりできない状況はまだ続きそうです。そこで、今日の終業式で子どもたちに「夏休みはたくさん本を読みましょう」と話をしました。家にいる時間が長くなることで、ゲームの時間ばかり増えるのではなく、読書の時間をぜひ増やしてほしいと願っているのです。その中で、中・高学年向けのお薦めの本として、この「カカ・ムラド ナカムラのおじさん」を紹介しました。中村哲さんのことを知ってもらいたいとの思いとともに、読書のきっかけになってくれればと思ったのです。学校には一冊しかありませんので、夏休みに借りることができるのは一人だけです。興味をもった子どもたちには、2学期以降にどんどん読んでもらいたいと思っています。

コロナ禍の中、少し不自由な夏休みですが、それぞれのご家庭で素敵な家族の思い出がたくさんできることを願っております。